

## 公開質問書

2013年7月2日

愛媛県知事 中村時広 様

伊方原発をとめる会  
松山市三番町 5-2-3 ハヤビル 3F  
事務局長 草薙順一

東京電力福島第1原発事故では、制御棒が入って原子炉は停止したものの、運転時の7%程度と言われる崩壊熱を取り去ることができず、燃料が熔融し爆発まで引き起こしました。今も事故は収束していません。福島県では、18歳以下の甲状腺がんの検診で、2次検査対象者の半数に満たない421人の検査結果で、12人が甲状腺がん、15人ががんの疑いがあると伝えられています。原発事故の深刻さを示しています。

四国電力が燃料棒に異物が付着していたことを県に報告していなかったことで、県が厳しく対応する旨報じられたのが6月6日でした。27日の四電の報告を受け、早くも翌28日には知事が、「信頼はかなり回復した」とし、再稼働申請は「事業者が決めること」と報道陣に語った旨報じられています。四電は8日にもMOX燃料を使ったプルサーマルで3号機の再稼働を申請しようとしており、断じて許されません。

私たちは、知事のこのような軽い対応に根本から疑問を感じます。福島事故の原因も解明されず、事故処理も完結していないもどで、再稼働は論外だと考えます。県として、四国電力に再稼働を申請しないよう求めることこそ必要だと考えます。

なお、その上で、下記の点を質問致しますので、7月8日までに、ご回答ください。

### 記

#### (1) 厳しく検証しようとする新潟県の泉田知事の姿勢について、同じ立地県の知事としてどのように受け止めていますか？

- ① 泉田知事は、新たな「規制基準」に関し、「現時点では、福島第1原発事故の十分な原因究明や対応策ができていないと思えない。事故の検証・総括抜きの基準では国民の信頼を得られないだろう」と語っています。中村知事は、新たな「規制基準」は、十分なものだとお考えですか。
- ② 泉田知事は、原発の「安全管理に関する技術委員会」に、原発推進側に立ってこなかった研究者等を委員として任命し、厳しく検証をしようとしています。この立場は、現在の中村知事の態度と大きく異なると思います。このことをどのように受け止めていますか。

#### (2) 知事は四電の原発固執方針に追随するのでしょうか？

- ① 6月8日の報道で、廃炉予算の積立不足が報じられています。しかし、5月14日の料金値上げに関する公聴会で、四電社長は1から3号機まで全て稼働をめざしていると表明し、廃炉への積立も問題なしと答えています。社長の発言は、40年も越えて原発を延々と運転することを当然視したものと云わねばなりません。知事はこのような四電の姿勢に追随するのでしょうか。
- ② また、知事は本気で廃炉計画を四電と国に求めているのでしょうか。

(3) 制御棒が入らない場合、原子炉の熱を取り去ることができるかと知事は考えているのでしょうか？

- ① 今年3月14日に、知事は四電の追加安全対策を報告しています。そこでは、制御棒が入らなかった場合、「原子炉を除熱し、その影響を緩和するため、補助給水ポンプを自動起動させる」旨説明しています。それは、原子炉の熱を取り去るのではなく、影響の「緩和」でしかありません。知事は、制御棒が入らない場合、どのように対処するつもりでしょうか。
- ② 制御棒が入らない場合、住民は安全に避難しきれのでしょうか。

(4) 地震動の「過小評価」と、疑問だらけの「耐震裕度2倍化」を、知事は鵜呑みにするのでしょうか？

- ① 南海トラフの地震想定で、四電の震度予測は、愛媛県の予測を下回っています。大阪府立大学名誉教授で、大阪府立高専の校長もされていた長沢啓行氏は、四電の「過小評価」を「応力降下量」が小さいことなどをあげて指摘しています。さらに、四電の言う「耐震裕度2倍化」は、疑問だらけであることを指摘しています。知事はこの四電の報告を鵜呑みにしているのでしょうか。
- ② また、これらを検証するための対応をしているのでしょうか。

(5) 「伊方原発環境安全管理委員会」と「部会」の委員は、露骨な再稼働推進論者まで含めた構成になっています。知事はこれで、厳格な審査ができるとお考えでしょうか？

- ① 露骨に再稼働推進を主張する奈良林直氏の任命は、県の同委員会の委員選出の基準にも外れ全く公平を欠くものだと言わねばなりません。知事は、この委員を解任すべきですが、どうされますか。
- ② 1号機の脆性遷移温度問題について、取り出して2年近くなるのに、いっこうに結果が示されません。2年間も時間を要するという四電の説明の合理性はどこにあるのでしょうか？ 環境安全管理委員会の「部会」委員の姿勢とともに、知事の姿勢にも甘さがあるではありませんか。
- ③ 約16年間(2011年当時)、報告のなかった1号炉の脆性遷移温度問題に関して、渡邊英雄委員は知事の取り出し意見に「早すぎる」旨、疑義を呈していました。また、「原子炉安全専門部会」では、四電の「耐震裕度2倍化」の資料検討の際に、「2倍」は必要ないなどと述べる委員も複数いました。こうした委員構成で、厳しい審査ができるとお考えなのでしょうか。
- ④ 福島第1原発3号機では、プルサーマルによる発電が行われていました。激しい爆発と強い放射能のために、炉内の状況把握すら困難な現状では、MOX燃料が事故に及ぼした影響は解明できていません。知事は、MOX燃料だから問題とは考えないようですが、その根拠は何なのでしょうか。

以上